

## 序 文

有明海の主幹産業であるノリの養殖業は、近年、生産額は低迷を続けているが、その原因は病害発生であり、緊急かつ抜本的な解決が望まれる。しかし病害も次第に多様化しつつあり、また養殖環境の悪化とあいまって、その対応は一層複雑なものとなっているのが現状である。

一方、有明海には特産的な魚介類が多いが、その資源増大を図り、産業的育成を推進してのり養殖と合わせて周年操業体制を確立していかねばならない。

今回はそれらに主眼をおいた調査の中からいくつかの研究成果をとりまとめ報告する。

昭和60年4月

有明水産試験場長 木 下 和 生

# 佐賀県有明水産試験場報告

第9号 昭和60年4月

## 目次

### 序文

1. 昭和56・57年度において佐賀県有明海で発生したスミノリについて … 1  
川村嘉応・山下康夫・島崎大昭
  2. 養殖スサビノリ幼葉の部位による生長について …………… 19  
川村嘉応
  3. ノリ葉体の分解と無機化—I  
—特に室内実験条件下における各種栄養塩類等の溶出— …………… 23  
馬場裕文
  4. 佐賀県有明海のノリ養殖における漁海況情報の利用 …………… 39  
馬場裕文・山下康夫
  5. 水温・塩素量の年度別変動パターンと養殖ノリの病害について …………… 45  
山下康夫・川村嘉応
  6. ムツゴロウの生態—II  
—河川域における稚魚及び若魚の分布について— …………… 55  
異儀田和弘
- 有明水産試験場の機構及び所掌事務・職員名 …………… 60